

注意

1. 答案用紙は問題の真中に挿入してあります。
2. 受験番号は各答案用紙の指定の箇所だけに記入しなさい。受験者の氏名、符号等が書いてある答案は無効になります。
3. 答案は配付した答案用紙で作成しなさい。
4. 答案用紙は、必ず切り取り線で切り離し、提出しなさい。
5. 問題は持ち帰ってよろしい。

第三問

(満点 100点)

{第四問とあわせ
時間 2時間}

損益の計算と表示に関する次の各問に答えなさい。

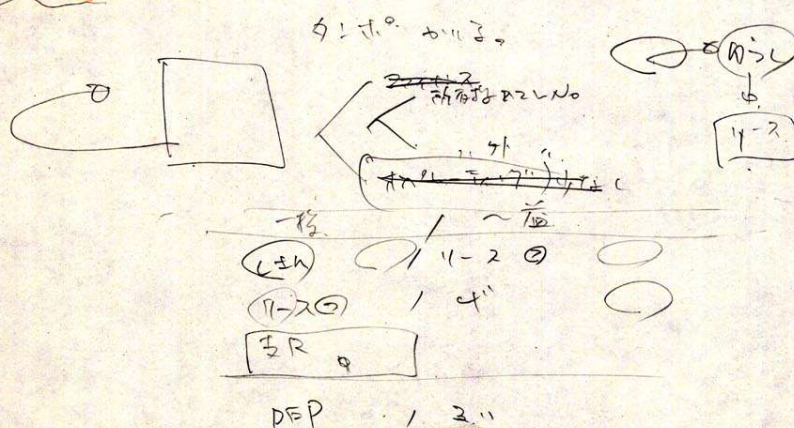
問1 損益計算書原則にある「損益計算書は、企業の経営成績を明らかにするため、一会計期間に属するすべての収益とこれに対応するすべての費用とを記載して経常利益を表示し、これに特別損益に属する項目を加減して当期純利益を表示しなければならない。」という原則に関して、次の(1)及び(2)に答えなさい。

(1) 「特別損益に属する項目」としては、どのようなものがあるか。性格別に分類し、それぞれに属する項目を列挙しなさい。

(2) 損益計算書で「企業の経営成績を明らかにするため」には、「経常利益を表示」するところまでで十分である、という考え方の是非を論じなさい。

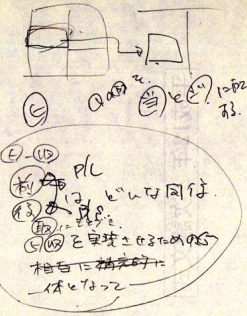
問2 損益計算書原則にある「すべての費用及び収益は、その支出及び収入に基づいて計上し、その発生した期間に正しく割当てられるように処理しなければならない。」という原則と、貸借対照表原則における「資産の取得原価は、資産の種類に応じた費用配分の原則によって、各事業年度に配分しなければならない。」という原則との関係を、費用の計上原則側面から述べなさい。

問3 ファイナンス・リース取引に該当するセール・アンド・リースバック取引がなされたものとする。この場合の借手側の会計処理を損益計算の側面から述べなさい。



- 1) 11月1日 経常的収益, 当分の利益に特有の費用
 - 2) 順序 前項目と2210 (2) の金額が異なるのは、異業種との
 - 3) 10月31日 11月1日 の格差を
- 4) 2000年

本日の 11月1日 11月31日
 11月1日 11月31日
 11月1日 11月31日
 11月1日 11月31日
 11月1日 11月31日



② 当分の利益
 経常的収益

本日の 11月1日 11月31日
 11月1日 11月31日
 11月1日 11月31日
 11月1日 11月31日

③ 11月1日 11月31日
 11月1日 11月31日
 11月1日 11月31日
 11月1日 11月31日

11月1日 11月31日

第四問

(満点 100点)

{第三問とあわせ}
時間 2時間

負債に関する次の各問に答えなさい。

問1 企業の損害補償責任に関わる係争事件を例にして、偶発債務、負債性引当金及び未払金の性格と会計処理の違いを説明しなさい。

問2 新株引受権付社債について、(a)一括法と(b)区分法のいずれを採用するかによって、当該社債の発行後における損益計算にどのような違いが生じるかを説明しなさい。

問3 社債を割引発行した場合、社債発行差金を(c)資産計上する考え方と(d)当該社債から控除する考え方がある。これら2つの考え方について、それぞれの根拠を述べなさい。

- (1) (A) と (B) どちらの株を買えばいいかという問題。
 (2) (A) の買値 970、(B) の買値 1000。これは、
 この株の時の買値(元)は、B/P が 1/100、A/B が 1/70。
 (3) (A) の買値は、この株の買値 970、(B) の買値は 1000。
 (4) (A) が有利か (B) が有利かを調べる。
 (5) (A) が有利か (B) が有利かを調べる。

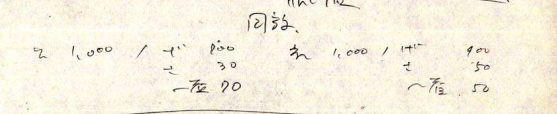
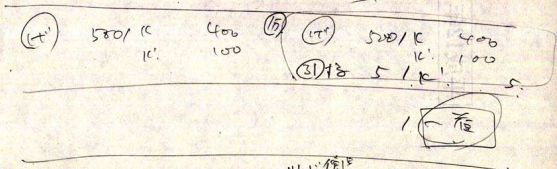
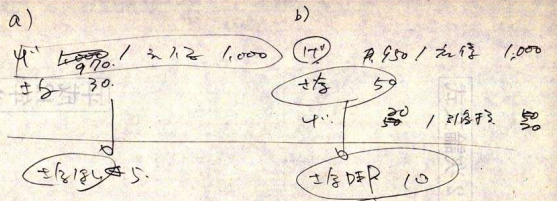
足に 1/100 と 1/70 の買値がある。これは、A/B が 1/70、B/P が 1/100。
 (A) を買ったとき、(B) を買ったとき、どちらの株を買ったかによって、
 1) 当期の利益が異なる。2) 将来の利益が異なる。3) 税金が異なる。
 4) 利益の総額は異なる。

- 1) 当期の利益が異なる。
- 2) 将来の利益が異なる。
- 3) 税金が異なる。
- 4) 利益の総額は異なる。

まず、A/B と B/P の買値を調べる。これは、A/B が 1/70、B/P が 1/100。
 (A) の買値は 970、(B) の買値は 1000。これは、
 (A) は将来の利益が異なる。これは、A/B が 1/70、B/P が 1/100。
 (B) は将来の利益が異なる。これは、A/B が 1/70、B/P が 1/100。

(A) の利益は、B/P が 1/100、A/B が 1/70。
 (B) の利益は、B/P が 1/100、A/B が 1/70。
 (C) の利益は、B/P が 1/100、A/B が 1/70。
 (D) の利益は、B/P が 1/100、A/B が 1/70。

(A) の利益は、B/P が 1/100、A/B が 1/70。
 (B) の利益は、B/P が 1/100、A/B が 1/70。
 (C) の利益は、B/P が 1/100、A/B が 1/70。
 (D) の利益は、B/P が 1/100、A/B が 1/70。



c) 利益
 (A) 1,000 / 10 = 100
 (B) 1,000 / 10 = 100
 (C) 1,000 / 10 = 100
 (D) 1,000 / 10 = 100

d) 利益
 (A) 1,000 / 10 = 100
 (B) 1,000 / 10 = 100
 (C) 1,000 / 10 = 100
 (D) 1,000 / 10 = 100